

関市消防委員会議事録

○日時

令和2年12月18日（金曜日） 午前10時30分 開議
午前11時45分 閉議

○場所

関市役所 大会議室

○出席委員

委員	長	石	場	公	章	委員	道	家	直	樹
委員		土	屋	泰	弘	委員	小	川	寿	一
委員		佐	藤	恵	美子	委員	遠	藤	俊	三
委員		小	川	さ	おり	委員	菊	山		讓

○欠席委員

副委員長 藤井 晃 委員長 坂井 一弘

○説明のため出席した者

市長公室長	森	川	哲	也	危機管理課長	安	田	肇	
危機管理課 課長補佐	後	藤	章	仁	危機管理課 主査	佐	藤	隆	政

○傍聴者（なし）

○審議事項

- 1 令和2年度 消防団事業に係る新型コロナウイルス対応について
- 2 年末夜警について
- 3 出初式について
- 4 消防団再編計画について
- 5 準中型免許取得に関する助成について
- 6 防災行政無線 戸別受信機のデジタル化対応について

○議事録

1 令和2年度 消防団事業に係る新型コロナウイルス対応について

佐藤主査 説明

(遠藤委員)

新聞で関警察署の職員が新型コロナウイルス感染症に感染したとの報道がありましたが、関市でカウントしなくて、岐阜市でカウントするのですか。

(危機管理課長)

勤務地は関警察署であるが、感染した職員の居住地が岐阜市であるため、県の発表では岐阜市でカウントしています。

(石場委員長)

関市における新型コロナウイルス感染症の感染者は現在55人ですか。

(市長公室長)

はい。現在55人で12月5日以来感染者が出ていない状況です。

その他の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、本日(12月18日)から酒類を提供する飲食店に対する営業時間短縮の要請を出しています。

また、県としても医療体制がひっ迫してきているという危機感があります。

リスクレベルについては、市内での感染者の状況を基準としているが、県内の状況等も踏まえ判断していかなければならないと考えています。

(小川委員)

関市の感染者55人については、治癒して帰宅しているのですか。

(市長公室長)

現在入院している感染者は2人、亡くなられた方が1人います。それ以外の方は退院しています。

(小川委員)

関市は東京のような状況ではないので医療については問題ないのでは。

(市長公室長)

中濃厚生病院が中濃圏域の感染者に対応する指定医療機関となっており、可児市在住や美濃加茂市在住などの感染者も中濃厚生病院に入院することになるため、関市での感染者数は少数であるものの医療体制は緊迫した状況であると考えられます。

2 年末夜警について

佐藤主査 説明

(土屋委員)

夜警については、本来は年末の防火・防犯を兼ねて行い、詰所で飲食を伴い団員同士のコミュニケーションを図るものですが、今回は詰所での飲食は行わず、人員規模を縮小し、巡回をメインとして実施します。

3 出初式について

佐藤主査 説明

(土屋委員)

通例では文化会館で出初式の式典を行いますが、新型コロナウイルス感染の恐れがあるため、屋外である津保川河川敷で縮小した式典と放水を実施することとしました。これは、令和2年中、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、放水を伴う訓練および車両や可搬ポンプ等の装備品の点検もままならない状況が続いているため、出初式での放水を実施することにより、各装備の点検および放水訓練を兼ねて行うものです。

(石場委員長)

来賓の人数も3人に縮小するというので、妥当だと思われま。私も毎回来賓として出席し式典の最後に万歳三唱を行っていたが、このご時世に万歳なんて良いのかといった疑問もありました。

(土屋委員)

今回の出初式については、万歳三唱はせず、総括の形で中濃消防組合の消防長にまとめのあいさつをお願いしています。

4 消防団再編計画について

後藤課長補佐 説明

(菊山委員)

2団員の確保の方策の1の勧誘方法について、任期の統一的な基準の作成と自治会・自主防災との連携のところ、実績・進捗が未達成(地域により事情が異なる)とありますが、一部地域は達成しているとのことですか。

(後藤課長補佐)

一部の地域においては、定年を40歳と定めて退団していきりますが、団員の確保上、任期の統一的な基準が困難であり、一部地域での運用になっています。

(菊山委員)

実施・進捗が未達成の項目について、今後どうしていきますか。

(後藤課長補佐)

現状実施内容等ははっきりとお示しできませんが、団員の確保が困難になっているため、今後は一層の検討が必要になってくると考えています。

(菊山委員)

1組織のあり方の3報酬・待遇について、特典・報酬アップ等加入促進施策の検討について、サポートプロジェクトカードにQRコードを設けるとありますが、QRコードを付けたことにより利用率が増えたといったことはありますか。

(後藤課長補佐)

申し訳ありませんが、利用率の変動についての検証はできていません。

(遠藤委員)

2 団員確保の方策の1 勧誘方法について、自治会・自主防災(会)とありますが、1自治会で1つの自主防災会を構成している場合もあり、複数の自治会や支部全体で1つの自主防災会を構成している場合もある。こういった構成の違いが勧誘の働きかけを困難にしている部分があるのではないのでしょうか。

(後藤課長補佐)

その通りです。

(遠藤委員)

自治会との関わりの中での消防団のあり方について、消防団そのものの編成が自治会の区割りと一致していないので、自治会連合会支部が働きかけようとしてもその役割・機能が果たせない。消防団の再編成というと区割りを含む組織そのものの再編成ととらえています。計画は車両や車庫の再編になっているのではないのでしょうか。前述の(各地域と分団の区割りが異なる)矛盾について、消防団は地域に貢献していただき、長い歴史がある組織ではあるが、自治会は勧誘等の協力体制に関して分団について回っている感じです。区割りについて地域と分団が異なるため困ることが多いです。

一番困るのは、単位自治会や単位支部で何ともできないことが、学校区、消防団、青少年育成、地域委員会、投票所の区割りが一致していないことです。富岡地区の住民が旭ヶ丘の投票所で投票するなど、一致していないことで、働きかけが統一的にできないために、一人ひとりが無責任になってしまうことがあります。例えば東山での火災では、消防団は旭ヶ丘分団が火災出動しますが、被災した住民の方への支援は富岡支部が行うといった形になります。すぐには難しいことかもしれないが、直していく必要があります。

(土屋委員)

以前、安桜分団と倉知分団で学校区に合わせる動きがありました。その際には消防団からではなく、自治会からの働きかけにより編成が変えられました。地域があつての消防団なので消防団側で区域割を行うといったことはできません。自治会で区域について協議いただきたい。

(市長公室長)

行政側の理想としては、学校区を中心として区割りがしたいところです。自治会も学校区を基準とした区割りであれば良いのですが、昔からの流れもあり上手くいきません。しかしながら学校区に一致するのが望ましいと考えています。

(石場委員長)

自治会と一緒に勧誘に行くということが昔からありますが、最近ではどういった勧誘方法をされていますか。

(後藤課長補佐)

地域により勧誘の方法も様々で、自治会中心、分団中心、自治会と分団でといった形で勧誘していると聞いています。

(石場委員長)

板取分団や洞戸分団の団員数が激減しているとの説明でしたが、2つの分団が1つになっていくのでしょうか。

(後藤課長補佐)

洞戸分団については車庫・車両の整理がされているところですが、板取と洞戸となると範囲がかなり広がるため、1つにするには、よく考えていかないといけません。ちなみに武儀地域については、現在3つの分団がありますが、地域と分団と

で検討して再来年には1分団に統合していくといった動きがあります。

5 準中型免許取得取得に関する助成について

後藤課長補佐 説明

(菊山委員)

どれぐらいの制度利用を想定されていますか。

(後藤課長補佐)

来年度の利用予定者は1名と聞いていますが、今後若い団員が増えていくにつれて制度利用が増えていくと思われます。

6 防災行政無線 戸別受信機のデジタル化対応について

後藤課長補佐 説明

(後藤課長補佐)

今後の対応は検討中とありますが、近年に建設された車庫、詰所には戸別受信機が未設置であり、アナログの戸別受信機が設置された当時に比べ、屋外拡声子局が増えたことや、団員のあんしんメール利用が増えていることで、戸別受信機が無いことで支障はないので、デジタル化対応はしない方向で考えています。

その他

(遠藤委員)

年末夜警実施要綱の中で、マスクの着用、換気、距離を保つ、検温の実施といった新型コロナウイルス感染症対策が記載されていますが、できれば、手指消毒については記載をした方が良いのではないのでしょうか。

(佐藤主査)

記載がされていませんが、各車庫、詰所にアルコール消毒液とマスクを配布して、手指の消毒について徹底していますが、夜警の実施要綱には記載が漏れており申し訳ありません。

(石場委員長)

車庫詰所には準備がしてあるということですね。

(佐藤主査)

その通りです。